

行政視察 神宮次 秀 樹 議員

日時：令和5年7月31日(月)～8月2日(水)

場所：北海道佐呂間町、北海道網走市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～羽田空港第1・第2ターミナル駅	鉄道	往	111.7	1,570	1,050			2,620
羽田空港～女満別空港	飛行機	往				29,770		29,770
女満別空港～北見バスターミナル	バス	往					1,200	1,200
北見駅～遠軽駅	鉄道	往	60.2	1,490				1,490
遠軽厚生病院～佐呂間バスターミナル	バス	往復					1,000	1,000
遠軽駅～網走駅	鉄道	往	113.2	2,860	2,360			5,220
網走駅前～東3丁目(網走市)	バス	往復					420	420
網走駅前～女満別空港	バス	復					1,050	1,050
女満別空港～羽田空港	飛行機	復				30,180		30,180
羽田空港第1・第2ターミナル駅～佐野駅	鉄道	復	111.7	1,570	1,050			2,620
計				7,490	4,460	59,950	3,670	75,570

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	75,570 円
(うち航空運賃)	59,950 円)
計	108,570 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 岩上 裕一

行政視察 神宮次 秀 樹 議員

日時: 令和6年2月5日(月)～2月7日(水)

場所: 鹿児島県始良市、鹿児島県枕崎市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野～羽田空港	鉄道	往	111.7	1,650	1,050			2,700
羽田空港～鹿児島空港～羽田空港	飛行機	往復	1,934.0			38,337		38,337
鹿児島空港～帖佐	バス	往					480	480
帖佐～鹿児島中央	鉄道	往	20.3	480				480
鹿児島中央駅～測候所下	バス	往					1,440	1,440
枕崎～鹿児島中央駅	バス	復					1,440	1,440
鹿児島中央～鹿児島空港	バス	復					1,400	1,400
羽田空港～佐野	鉄道	復	111.7	1,650	1,050			2,700
								0
計				3,780	2,100	38,337	4,760	48,977

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	48,977 円
(うち航空運賃)	38,337 円)
計	81,977 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 岩上 裕一

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

令和5年8月31日

佐野市議会議長 川嶋 嘉一 様

政友みらい 行政視察報告

議員名 神宮次秀樹

1, 期日：令和5年7月31日（月）～8月2日（水）（2泊3日）

2, 視察地及び視察事項

（1）北海道佐呂間町「田中正造関係の歴史を通したまちづくり」について（7月31日）

（2）北海道網走市「農産物のブランド化」について（8月1日）

3, 参加議員

小暮博志、山菅直己、川嶋嘉一、慶野常夫、神宮次秀樹、菰原政夫、長浜成仁

4, 視察報告

（1）佐呂間町「田中正造関係の歴史を通したまちづくり」について

①佐呂間町の概要

・人口：4, 689人（令和5年3月末現在）

・面積：404.94km²

・議員定数：10人

・議員報酬：185,000円（月額）

・政務活動費：—

・佐呂間町は、オホーツク管内のほぼ中央部に位置し、東に北見市常呂、西に北見市留辺蕊、遠軽町生田原、湧別町、南に北見市が接しており、北は一帯がサロマ湖に面している。一次産業が盛んで、農業ではサロマ和牛やサロマ豚、町のキャラクターになっている南瓜が知られており、また、漁業ではホタテや牡蠣等が特産品となっている。明治44年4月、栃木県から足尾銅山鉱毒事件問題に端を発した開拓入植があった。平成25年10月に本市で開催された田中正造没後100年式典には佐呂間町から7名が参加した（栃木地区：入植者三代目2名・自治会3名、町職員2名）。平成26年には、町民センターに歴史資料をまちづくりに活かす拠点づくりとして、田中正造や入植等の資料を常設で展示している展示室が設置された。佐呂間町には「栃木」がある。

②視察内容

今回は、足尾銅山鉱毒事件問題で実際に栃木県から入植した栃木地区にて武田温友町長より当地の説明（栃木開基百周年記念之碑、天台宗日光山多聞寺等）を受け、その後、町民センターにて佐藤昭男議長をはじめとする関係町議会議員の同席があり、「ふたつの栃木」と題した田中正造関係の歴史を通したまちづくりについて詳細説明を受けた。詳細説明後は同施設にある展示室に移動し、武田温

友町長より展示室が設置された経緯や展示物の説明を受けた。

佐呂間町が行っている取組として町民センターでの常設展示の他、教育委員会が作成している小学校3・4年社会科副読本の中で、栃木県からの入植や栃木という地名が付けられた歴史を分かりやすく解説している。

武田温友町長や今回同席された町議会議員の方々からは、歴史を次世代に語り継いでいく重要性に触れながら、町内外問わず多くの方々に栃木の歴史を知ってもらえるような取組を展開していきたい旨の話があった。

(2) 網走市「農産物のブランド化」について

①網走市の概要

- ・人口：33,277人（令和4年3月31日住民基本台帳人口）
- ・面積：471.00km²
- ・議員定数：16人
- ・議員報酬：380,000円（月額）
- ・政務活動費：会派の所属議員数に年額24万円を掛けた額
- ・網走市は、オホーツク海に面しており、1年を通じて晴天が多く、年間降水量・降雪量は少ない地域である。また、沿岸地帯では、冬期の特殊減少として毎年1月中旬頃より流水が到来し、観光客が多く訪れる。網走市は、土地利用型作物の栽培に適するなだらかな火山灰性の丘陵台地であり、耕地面積は道内179市町村で第19位となっており、広大な耕作地を有している。基幹3品として、麦類（小麦、ビール大麦）、馬鈴しょ、てん菜（ビート）がある。

②視察内容

今回は、網走市役所庁舎内の市議会会議室にて担当職員より当該事項の説明を受けた。

網走市内の農家戸数は年々減少しており、平成10年は504戸であったが、令和3年は314戸となっている。前述の通り、網走市は広大な耕作地を有しており、その中で経営の安定化を目的として数戸の農家が大型農業機械等を共同所有し、共同作業を行う「営農集団の組織化」が進んでいる（現在、市内36の営農集団が組織されている）。大型機械を導入した大規模共同営農形態の取組を先進的に行った地域である。

道内有数の麦類の生産地として基盤整備を重点的に行っており、日本最大級の麦類乾燥調製貯蔵施設（品質の向上・均一化、物流コストの合理化を行い、安定供給が可能）や小麦船積センター（オホーツク管内産小麦の8割を集約、物流コスト軽減）を整備した。

農産物のブランド化として地元農産物の高付加価値化の研究を目的とした網走市高次加工研究所が昭和62年に設立され、野菜ペーストや大麦若葉青汁、またたび製品が主な研究成果として挙げられ、同研究所は平成28年度に閉鎖となった。現在の取組としては、年間2回から3回収穫が可能な行者菜（行者ニンニクとニラを交配させた新野菜）や健康面での付加価値が高いオホーツク網走産長いも、3等級以上の肉質に限られているオホーツクあばしり和牛のブランド化の推進に力を入れている旨の話があった。

・北海道佐呂間町での行政視察の様子



・北海道網走市での行政視察の様子



5. 所感

- ・ 網走市は、大型機械を導入した大規模な共同営農形態に取り組んでいる先進地といえます。麦類、馬鈴薯、てん菜を中心に計画的に栽培がおこなわれており、1戸当たりの耕作面積が4.5ヘクタールお聞きし驚きました。コンバインも2～3人乗りの4～5000万円のを共同購入しているとの事でした。離農者が出て耕作放棄地は発生せず、必ず何方かが耕作を引き継ぐ取り決めがされており、北海道の農業は本土とは少し桁の違いを感じました。佐野市の今後の農政への取組の参考にさせていただきたいと思います。
- ・ 佐呂間町は明治44年、足尾銅山鉱毒問題に端を発した、栃木県からの北海道サロマベツ原野への集団移植が始まり、開拓された地域に「もう一つの栃木」が誕生しました。現地を視察し、武田町長や関係者の皆様から、北に開かれた「栃木」のこれまでの貴重なお話を伺う事が出来ました。10年前の田中正造翁100回忌などを含め、佐野市と佐呂間町の交流が現在も続いていて、私も何らかの形で佐呂間町との関わりを続けていきたいと思いました。

令和6年3月18日

佐野市議会議長 川嶋 嘉一 様

政友みらい 行政視察報告

議員名 神宮次秀樹

1, 期日：令和6年2月5日（月）～2月7日（水）（2泊3日）

2, 視察地及び視察事項

- （1）鹿児島県始良市「モラリティ・インプループメント推進事業」について（2月5日）
- （2）鹿児島県枕崎市「移住定住事業（住もう！まくらざき）」について（2月6日）

3, 参加議員

小暮博志、山菅直己、川嶋嘉一、慶野常夫、神宮次秀樹、穂原政夫、長浜成仁

4, 視察報告

（1）始良市「モラリティ・インプループメント推進事業」について

①始良市の概要

- ・人口：77,954人（令和5年4月1日現在）
- ・面積：231.25km²
- ・議員定数：24人
- ・議員報酬：303,000円（月額）
- ・政務活動費：360,000円（年額）
- ・始良市は、薩摩半島と大隅半島の集束点、鹿児島県のほぼ中央に位置し、東西に国道10号、JR日豊本線が通り、九州自動車道と東九州自動車道が合流する加治木ジャンクションや始良インターチェンジがあり、令和3年には桜島スマートインターチェンジが全面開通する等、交通の要所として発展している。この交通網により鹿児島県内を概ね2時間で結ぶことから、物流の拠点として企業の注目を集めている。また、交通網の利便性の良さから鹿児島市や霧島市のベッドタウンとして発展し、近年では始良市で子育てを考える世帯の注目を集め、鹿児島県内でも唯一人口増加の市となっている。

②視察内容

今回は、始良市始良公民館にて小倉寛恒教育委員会教育長が同席され、担当職員より説明を受けた。

「モラリティ・インプループメント推進事業」とは、子どもたちの道徳性を育んでいく中で、確かな自立へ導き、社会（公共）に貢献できる人づくりを社会全体（学校・家庭・地域）で協働して取り組んでいこうとする事業で、始良市子育て基本条例（学校、家庭、地域、それぞれの役割と責任が明

記されている)を具体化するものである。モラリティは道徳性、インプルーブメントは向上を意味している。

挨拶を交わす姿、思いやりや感謝の気持ちを伝え合う姿、ルールやマナーを守る姿、地域行事に参加する姿を大切にすることが、自分自身がより良く成長することや始良市が良くなることに繋がるとの考え方のもと、学校では「道徳の時間」を充実させる指導方法や資料の開発、研究実践校による家庭・地域と協働した取組の推進、学校・家庭・地域が協働して子どもの道徳性を育むためにどのような取組が必要かを考える協議会「モラリティ・インプルーブメント・ミーティング(MIM)」を設置している。

鹿児島県内でも唯一人口が増加している市であり、今後も学校・家庭・地域が協力し合って子どもたちのための取組を進めていけば、子どもたちのより良い成長に繋がっていくと考えているため、この取組を引き続き行っていきたい旨の話が小倉寛恒教育委員会教育長よりあった。

(2) 枕崎市「移住定住事業(住もう!まくらざき)」について

①枕崎市の概要

- ・人口:19,208人(令和4年10月1日現在)
- ・面積:74.78km²
- ・議員定数:12人
- ・議員報酬:275,000円(月額)
- ・政務調査費:平成19年度から廃止
- ・枕崎市は、鹿児島県薩摩半島の南西部に位置し、南は広大な東シナ海に面している。その形状は、ほぼ五角形である。「台風銀座」と称される一方、古来「カツオ漁業」としえ栄え、かつお節製造は市内43の加工場で14,006トンの節類を生産し、全国生産量の約5割を占めており、生産量は日本一である。また、本土最南端の始発・終着駅である枕崎駅がある。枕崎市は、鹿児島県内でも特に激しい人口減少、高齢化が進んでいる。日本一の鰹節や日本初の紅茶等の貴重な地域資源が活かしきれていないという課題を抱えている。

②視察内容

今回は、シェアオフィスやコワーキングスペースとしての機能を持つ「osoto 枕崎」にて説明を受け、その後、築100年の古民家をリノベーションした宿兼レンタルスペースである「ゲストハウス KoToKoTo」を視察した。

「osoto 枕崎」では、担当職員より「住もう!まくらざき」の内容を中心に、枕崎市が抱える移住定住の課題に対して行っている取組(移住者住宅確保支援補助金や移住体験ツアー等)について説明を受けた。また、枕崎市地域おこし協力隊員の方より「関係人口・移住定住促進事業」と題した企業連携や教育領域との関わり合い、今後の方針等について説明を受けた。

「ゲストハウス KoToKoTo」は、前述の通り、築100年の古民家を改修しており、宿としての機能だけではなく、各種イベントやレンタルスペースとして一棟貸等、様々な用途で空間を提供している。視察時は宿としての機能に加えて、テナントとして地場産の野菜やお米を使った日替わりメニューを提供するカフェが入っていた。

枕崎市として、日本一や日本初という地域資源を今後しっかりと活かしていく取組の展開、また、将来的に交流人口や関係人口になりうる層への積極的なコンタクトをしていきたいとのことであった。

・ 鹿児島県始良市での行政視察の様子



・ 鹿児島県枕崎市での行政視察の様子



5. 所感

◇始良市～モラリティ・インブループメント推進事業～

- ・ この事業は、小学生を中心に学校、家庭、地域が協力して子供たちの道徳性を高めていく働きかけを計画的に行っていくとする事業で、道徳性が高まっていく事で自分を伸ばし、他人を思いやり、自立した社会貢献できる人づくりに繋がっていく考えで進められていました。私も最近特に人格の形成に深くかかわる道徳教育を見つめ直す必要性を強く感じまして、機会があれば佐野市の現状や今後の考え方をお聞きしようと思います。

◇枕崎市～移住定住推進事業～

- ・ 本市を始め多くの自治体が人口減少対策として移住定住に取り組んでおりますが、枕崎市として地域おこし協力隊の受け入れや企業との連携等をお聞きし、また、築100年の古民家を改修しての活用例などを視察させていただき、大変参考になりました。今後の佐野市の対策に生かせればと感じました。